

1994年11月12日 創刊
2014年 1月24日 発行

●発行 者 須商東京同窓会 代 表 蜂 谷 雅 人
●編集 責任者 事務局長 中 山 勉
●郵便 振込口座 00120-6-726189

2013年 須商東京同窓会開催



♪人生の事業～我にあり
S40年 大峽賀利・中沢功夫

須商東京同窓会は、2013年11月2日（土）田町ハイレーンに須商健児53名が参集。ご来賓として、母校小出邦宜校長をはじめ、母校同窓会の荒井清治会長（S38卒）、霜田剛（S42卒）・和田安江（S38卒）・広瀬雅代（S58卒）各副会長、そして小林

昭夫近畿支部長（S38卒）にもご臨席いただき、賑やかな楽しい会となりました。

総会に先立ち、ボウリング組とウォーキング組とに別れ、それぞれ楽しみました。

総会は、蜂谷雅人東京同窓会代表そして、母校小出校長からご挨拶をいただき議事に入りました。

議事では、「経過報告」・「決算報告」・「今後の東京同窓会について」など全て承認していただきました。

このうち、「今後の東京同窓会について」は、幹事会において今後のあり方をいろいろ検討した結果ですが、私達の東京同窓会は母校の再編統合が行われる平成28年（2016年）度をもって解散することとし、毎年開催の「東京同窓会総会」は同年度をもって終了することをご承認いただきました。

これにつきましては、惜しむ声を沢山頂戴いたしました。時代の流れでやむを得ず、何とぞご了承くださいますようお願い申し上げます。

なお、「東京同窓会終息に向けての対応方法」につきましては、次ページ掲載の方針にて、ご承認いただきましたのでご参照ください。

「成美会誌」さよなら特集号

本紙は、長い間親しんでいただいていた参りましたが、東京同窓会の解散に先駆け、今回号をもって終了することになりました。これに伴い、今回は、会員の皆様に母校の

思い出や、現況などの寄稿をお願いし、『みなさんからのお便り』として、すべて掲載させていただきました。ご愛読ありがとうございました。

2014年度の総会は11月1日(土)です。ぜひご出席ください。

須坂商業高校東京同窓会総会



荒井・割田・盛田・小淵・関
蜂谷・樽沢・和田・小林・北島・小林

東京同窓会終息に向けての対応方法

1. 「須商東京同窓会」は平成28年（2016年）度をもって終了する。
平成26年（2014年）度から平成28年（2016年）度の3年間における会費・賛助会費・寄付金はいただかないこととする。
なお、総会費用は、総会出席者から実費をいただくこととする。
2. 現在の東京同窓会繰越金は、平成28年（2016年）度までに漸次消費するものとし、平成28年（2016年）度総会終了後における残金は、会計監査を経てから母校関係あるいは公的機関に寄付する。

須商です

須坂商業高校東京同窓会総



北沢・小川・勝山・小山



小田・大峯・小林・森山・岩井・西沢・返町
中沢・有賀・木村・尾畑・瀧沢



談笑

懇親会は、ご挨拶のあと、池田明治顧問（S31卒）の乾杯でいよいよ佳境へ。

中華料理をいただきながら、「ひと言スピーチ」とあわせて写真撮影、じゃんけん大会、そして「♪高校3年生」を皮切りに♪カラオケ大会へと・・・

賑やかに、共に過ごした楽しいひと時でした。

終宴間近、全員大きな声で「♪校歌」・「♪信濃の国」を合唱・・・

須商健見よ、永遠なれ!!



揃いました7人衆



先輩よろしくお願ひします

私たちの原点は



須坂商業高校東京同窓会総会



疋田・横谷・池田・小山・浜野・吉沢・浅岡
坂口・平尾・藤沢・丸山

霜田・中山・中島・宮越・田牧
金井・斎藤・泉・中澤・宮沢・高相

須坂商業高校東京同窓会総会



第20回ボウリング大会

ボウリング参加者12名

～成績は下記のとおり～

優勝	小田 彰	S40年卒	303P
準優勝	盛田 登	S38年卒	256P
第3位	中山 勉	S39年卒	251P



本部副会長の和田安江様の始球式により試合開始となりました。総勢12名で盛大に和気あいあいとひとり2ゲームに熱中して、ストライクあり、ガータありの連続で大きな拍手をしたり、残念な溜息ありと・・・大変有意義なひと時を皆さんと一緒にエンジョイできました。

第7回ウォーキング

今回は19名の参加を得て、「清澄庭園」と「深川江戸資料館」を歩きました。

清澄庭園は江戸の豪商、紀伊國屋文左衛門の屋敷跡と伝えられ、その後、岩崎彌太郎が社員の慰安や貴賓を招待する場所として造園しました。関東大震災後、岩崎家から東京市に寄付され、昭和54年東京都の名勝に指定されています。

一周30分程の庭園ですが、大きな池に各地の名石、富士山を模した築山など、明治の代表的な「回遊式林泉庭園」です。池巡り途中の石橋では大きなコイが口をパクパクしながら寄ってエサをねだり、遠くにサギも見ることができました。小雨が降り始め、急ぎの池巡りとなってしまいましたが、都会のオアシスを実感できました。

「深川江戸資料館」は江戸時代末（天保年間）の深川佐賀町の街並みを実物大で、コンパクトに再現しています。八百屋や米屋、船宿などの備品を手取る事もできました。船宿の前の川には舟が浮かべられており、火の見櫓との立体感がありました。

ボランティアのガイドさんが館内を案内してくれ、ビルの一隅でしたが江戸時代にタイムスリップした感じでした。



(6,560歩 3,9km) 高相記

2013年度 総会出席者

昭31卒 浅岡 良夫	昭31卒 池田 明治
昭31卒 小山 文夫	昭31卒 坂口 邦一
昭31卒 浜野 成一	昭31卒 疋田 雅博
昭31卒 平尾 雄市	昭31卒 藤沢 三男
昭31卒 丸山 圭三	昭31卒 横谷 亮
昭31卒 吉澤 利勝	昭32卒 齊藤 裕三
昭33卒 泉 英二	昭36卒 中澤 慎也
昭37卒 高相 博澄	昭38卒 阿部 桂子
昭38卒 小淵 重雄	昭38卒 北島佐恵子
昭38卒 関 昌雄	昭38卒 樽澤 輝男
昭38卒 蜂谷 雅人	昭38卒 盛田 登
昭38卒 割田 隆	昭39卒 中山 勉
昭39卒 宮沢 利二	昭40卒 有賀 信子
昭40卒 岩井 和雄	昭40卒 大峽 賀利
昭40卒 小田 彰	昭40卒 尾畑 良子
昭40卒 木村 光宏	昭40卒 小林 直治
昭40卒 返町 敦雄	昭40卒 瀧沢 定幸
昭40卒 中澤 功夫	昭40卒 西沢 弘文
昭40卒 森山 貞幸	昭41卒 小川 安雄
昭41卒 勝山 功久	昭41卒 北沢 博
昭41卒 小山 俊久	昭42卒 佐藤今朝雄
昭43卒 中島 貞子	昭43卒 宮越 薫
昭47卒 金井 年男	昭48卒 田牧 博
事務局 山田 竜也	
昭38卒 荒井 清治 (本部長)	
昭42卒 霜田 剛 (本部副会長)	
昭38卒 和田 安江 (本部副会長)	
昭58卒 広瀬 雅代 (本部副会長)	
昭38卒 小林 昭夫 (近畿支部長)	
学校長 小出 邦宜	53名

東京同窓会日程

第1部 第20回ボウリング大会【ゲーム開始13時40分】
(12名参加)

進行 小田 彰 (S40卒)

第7回ウォーキング会【スタート13時05分】
(19名参加)

ナビゲーター 高相 博澄 (S37卒)

第2部 総会【開会15時30分】

司会 小林 直治 (S40卒)

- 開会の辞……………副代表 有賀 信子 (S40卒)
- 東京同窓会代表挨拶……………代表 蜂谷 雅人 (S38卒)
- 来賓ご紹介・ご挨拶……………校長 小出 邦宜
- 議事……………議長 小山 俊久 (S41卒)
 - 経過報告 (2012年11月~2013年10月まで)
 - …事務局長 中山 勉 (S39卒)
 - 決算報告・監査報告 (2012年4月~2013年3月まで)
 - …会計 佐藤今朝雄 (S42卒)・監査 齊藤 裕三 (S32卒)
 - 今後の同窓会について…事務局長 中山 勉 (S39卒)
 - 役員改選について……………事務局長 中山 勉 (S39卒)
- 本部同窓会近況報告
 - …母校同窓会副会長 霜田 剛 (S42卒)

第3部 懇親会【16時10分から18時30分まで】

司会 金井 年男 (S47卒)

- 来賓ご挨拶……………母校同窓会 会長 荒井 清治 (S38卒)
近畿支部長 小林 昭夫 (S38卒)
- 乾杯……………顧問 池田 明治 (S31卒)
- 期別 (1分間)スピーチ
- ボウリング成績発表……………顧問 小田 彰 (S40卒)
- ジャンケン大会……………副代表 中島 貞子 (S43卒)
- カラオケタイム
- 校歌・信濃の国 合唱
 - …大峽 賀利 (S40卒) 中澤 功夫 (S40卒)
- 万歳三唱……………蜂谷代表 小出校長 荒井会長 小林支部長
- 閉会の辞……………副代表 泉 英二 (S33卒)

寄付者名 11月21日現在

1. 昭17卒 山西 伍助	14. 昭31卒 浜野 成明	27. 昭38卒 湯本 俊雄	40. 昭40卒 瀧沢 定幸
2. 昭20卒 西川 正宗	15. 昭31卒 池田 治夫	28. 昭38卒 関 昌雄	41. 昭40卒 森山 功久
3. 昭22卒 小平 公啓	16. 昭31卒 野田 良一	29. 昭38卒 関 谷 雅人	42. 昭40卒 大峽 賀利
4. 昭27卒 小川 滝弘	17. 昭33卒 牧 袈治	30. 昭38卒 村石 久二	43. 昭40卒 中澤 功四郎
5. 昭28卒 小宮 弘啓	18. 昭33卒 泉 英二	31. 昭38卒 小泉 充二	44. 昭41卒 勝山 守久
6. 昭28卒 宮沢 弘登	19. 昭34卒 駒 勝男	32. 昭39卒 宮澤 利二	45. 昭41卒 江守 俊久
7. 昭28卒 宮沢 嘉人	20. 昭34卒 小坂 公春	33. 昭39卒 中 中 勉	46. 昭41卒 小山 川安
8. 昭28卒 伊東 嘉光	21. 昭36卒 藤 井 春	34. 昭39卒 中岩 幸夫	47. 昭41卒 小片 桐正
9. 昭30卒 前 吉勝	22. 昭36卒 本 藤 重	35. 昭39卒 中 岩 幸	48. 昭41卒 小片 桐正
10. 昭31卒 吉 澤 亮	23. 昭37卒 篠 原 喜	36. 昭40卒 岩 滝 由美	49. 昭43卒 宮越 薫
11. 昭31卒 横 尾 雄	24. 昭37卒 佐 藤 登	37. 昭40卒 有 賀 信	50. 昭44卒 稲 準
12. 昭31卒 平 尾 三	25. 昭38卒 盛 田 桂	38. 昭40卒 木 村 光	51. 昭48卒 田 牧 博
13. 昭31卒 藤 沢 三	26. 昭38卒 阿 部 桂	39. 昭40卒 檀 原 憲	217, 200円

須坂商業高校 甚句

ハ―えー
ハ―あ・・・須坂商業を
甚句に詠めばヨ―
ハ―信濃は北の一隅に
北信五岳を望みて
清き流れの千曲川
遠く聞こえるあの唄は
須坂 中野の両小唄
スキーで名高い菅平
百々 松川には生まれ
生ぶ声あげし須坂商
うなぎの寝床と人は云う
大正 昭和と平成に
幾世重ねて八十年
あまた人材世に送り
今やその数一万余人
経済界やら実業界
文化の面やらスポーツに
高校球界あこがれの
四十六年甲子園
須坂健児とOBが
しっかりと
手と手を取り合って
もしそれ臥竜が丘に立ち
一度雲を呼ばわむか
人生の事業我にあり



須商東京同窓会だより



須商東京成美会誌二十号に寄せて

須商東京同窓会

代表 蜂谷 雅人

(昭和38年卒)

先ずは、十年もの長い間、会長をされ東京同窓会を盛り上げていただいた、青木さんが今年4月急逝されました。大変お世話になりました。ありがとうございます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今年の須商東京同窓会は近年になく五三名が参加して下さいました。第一部はウォーキング会とボウリング会から始まりました。六年前から始まったウォーキング会を追うことに増えています。ランニング好きな私は散歩コースを選び楽しませてもらいました。今回のコースは清澄庭園・深川江戸資料館を巡る情緒豊かな散策でした。

此れより本題に入りますが成美会誌も今年で二〇号誌となります。平成六年に成美会誌が誕生し代表に神林氏、事務局は外谷、中野両氏と成美会スタッフ九人が携わり発足しました。成美会誌打ち合せ事務所は丸の内「ヒラノ印刷」です。先輩の平野宗雄氏が経営する事務所で成美会誌が誕生しました。創刊号の合言葉は「楽しい縦割りの付き合い」でした。

創刊号から三号誌までは写真もなく随筆とイラストに卒業生の広告でしたが四号誌から青木新会長が就任され、事務局長に坂口氏が加わり、同窓会誌に写真が加わり読み易くなりました。

また会長は大相撲を愛し角界にも深く親交があり、東京同窓会や須商創立八〇周年では相撲甚句協会の「昭和の触れ太鼓名人」福田永昌会長と甚句会師範を招き本場の相撲甚句、触れ太鼓の多彩な芸を披露しました。

八号誌からは同窓会がより和むように副会長に女性の久保田、有賀さんの二人が加わり、雰囲気も華やかにになりました。会誌も期別同期会の様子や趣味等の記事を取り上げ好評でした。

十号誌記念号は「善光寺平の食の知恵」特集を組み、十一号、十二号は「みんなの掲示板」「同期会便り」等多くの記事が加わりました。

十三号を持ちまして青木会長が退任されましたが、我が東京同窓会にとつて青木会長は「中興の祖」のような存在でした。十五号誌から十九号誌は表紙頁に沢山のスナップ写真を載せ、構成に楽しさを感じます。

いよいよ成美会誌は、幕引きの二十号となりました。



近況報告

須商商業高等学校

校長 小出 邦宜

国宝である奈良薬師寺東塔の解体修理中に長野県内の中小高校名が刻まれた瓦が見つかりました。その一枚に「須坂商工」の校名がありました。昭和二十五年が二十六年の頃かと思われず。

本年度も新入生百二十一名が希望を胸に本校の門をくぐりました。新校を見据えての学級減により全学年3学級、全校9学級となりました。が学校の活気は変わりありません。

1学期には、部活動の各種大会が催され、多くのクラブが日頃の練習の成果を発揮しました。運動部では、卓球部・バドミントン部・バレー部・ソフトテニス部などが県大会に駒を進めました。女子バレー部は県ベスト8と活躍し、卓球部女子・バドミントン女子は、団体で県3位に輝き、北信越高校総体に出場しました。なかでも、卓球部女子は、ダブルスで長野県チャンピオンとなり福岡県で行われた全国高校総体に出場しました。

商業系クラブでは、長野県高等学校商業総合競技大会で上位入賞した珠算部・情報処理部が個人で全国大会に出場致しました。他にも吹奏楽部や書道部等地道に日々の活動を積み上げて頑張っているクラブも多くあります。殊に、くますぎクラブは全国の高校生が作った商品や自分達が開発した商品或いは地元の特産品などの販売を通して、地

元須坂の地域産業振興に大いに貢献しています。

恒例の第七十四回須商マーケットは、台風二十七号の影響を配慮し、十月二十五日開店を十一月十五日へと日程を変更いたしました。「さあ、笑顔があふれる3 days」をテーマに掲げ開催します。

流通ビジネスコースで学ぶ生徒が中心となって、須商マーケットリニューアルを目標に毎年様々な提案がなされていますが、本年は、市内の放置自転車回収し、プロの指導の下、修理組立をした「再生E-CO自転車」を販売の目玉とします。過去最高の五千名の来客者を数えた昨年を上回るよう、生徒職員一同張り切っております。

3年生の進路状況については、今年も厳しい就職状況が続いておりませんが、同窓生の皆様の各界での活躍もあり、就職を希望する生徒のほとんどが希望会社から内定をいただいております。

進学については、昨年の信州大学、高崎経済大学、同志社大学等の合格に続くよう指導を行っております。

東京同窓会の皆様方におかれましては、先輩達の活躍をご理解頂くとともに、今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い致しまして近況報告とさせていただきます。



閉校に向けて…すべての同窓生に万感の感謝！

須商同窓会

会長 荒井清治

(昭和38年卒)

平成二十七年度から須坂商業と須坂園芸が一つになって『長野県須坂創成高等学校』(仮称)が誕生します。新しい高校は、総合技術高校として商業科、農業科に加え工業科を新設し、地域に根ざして活躍する人材、世界に羽ばたくことのできる人材を育てるべく教育を考えています。

また、それぞれの学科の特色を生かし、各学校の建学の精神を活かした教育を傳承しつつ、学科連携による相互学習を行うことよって、より専門性を高めていきます。また、デュアルシステム等によつて、更に企業との関わりを強くして、コミュニケーション能力をつけることもに、実社会に役立つ学習内容となるよう慎重に検討を重ねております。

須商同窓会では閉校に向けて、平成二十四年八月に『須商閉校準備委員会』を設置し、第一回目の会合を持ち、現在までに七回の会議を開き検討を進めてまいりました。閉校準備委員会のメンバーは、同窓会、PTA、学校の代表者が中心となつて、次の四つの事業を柱として各専門委員会が企画推進しております。

- ◎総括責任者・荒井清治同窓会長
- 閉校準備委員会委員長・霜田剛副委員長
- 総務・式典担当・広瀬雅代副委員長
- ①**スポーツ大会**(吉田孝副会長)・甲子園出場した選手と現役野球部員との対戦や、有志OBとの対戦を、平成二十六年九月十四日(日)開催予定。

- 卓球、バスケ、バトミントン、ゴルフ大会も予定。いずれもどなたでも自由に参加でき、各大会後は交流懇親会(宿泊可)を実施します。
- ②**講演会**(中野博勝副会長)・高十五回卒、村石久二氏ご本人と有名人の講演を計画。氏は世界的にも活躍されている、㈱スターツコーポレーション最高責任者。平成二十七年三月一日(日)開催予定。交流懇親会も予定。
- ③**記念コンサート**(和田安江副会長)・吹奏学部出身者を中心に、現吹奏楽部とコラボレーションを、平成二十八年十一月開催予定。
- その他箏・尺八演奏ほか自由参加の心に残る音楽会を検討中。
- ④**記念誌の発行**(西沢直樹副会長)・閉校に相応しい内容とし、平成二十九年三月発行予定。閉校式典参加者には無料で贈呈。

☆詳細情報は決定したもののから順次、須坂商業高校同窓会ホームページで公開して参ります。

永遠の思い出づくりに皆様のご参加をお待ちしております。

須商同窓会総会は、平成二十六年六月十四日(土)の開催を以って休会とします。何か実施したい希望があれば同窓会本部まで一報下さい。

一万数千人の同窓生に万感の感謝を申し上げ、須商同窓会からの報告といたします。



近畿支部同窓会の近況報告

近畿支部同窓会

支部長 小林昭夫

(昭和38年卒)

東京同窓会のみなさんこんにちは。毎年「須商成美会誌」を拝読していますが、みなさんの日頃の活躍ぶり、團結の強さが伝わってきます。

私達の近畿支部は昭和29年に、大阪市内に就職した後輩の歓迎会として発足し、来年(平成26年6月)、還暦を迎えます。現在は西日本一円の居住者を会員有資格者としていますが、御多分に洩れず、会員数は減少の一途です。

それにも拘わらず、平成25年度同窓会は、ご来賓として荒井本部同窓会長、飯塚教頭先生をお招きし、桜満開の4月14日、会員・スタッフ全員協力のもと、大阪市内ホテルで盛大に行いました。

また、弊支部の活動目標は本校同窓会会則に準拠し、「会員の親睦をはかり、会員の心身の向上につとめ、随時研修及びレクリエーションを行い、人格の昂揚を図るものとする」となっています。

その為、親睦会を立ち上げ、年に数回「集い」を持ち、本年度は、7月28日にホテルピアガーデンで痛飲し、12月3日にはミナミで、飲み放題の忘年会を行いました。旅行、ハイキングも昨年度は実施しました。

親睦会は、折に触れて開催するつもりですが、これは、飽く迄も同窓会近畿支部から派生した組織・団体であります。

しかし、今後の同窓会の継続運営状況予想は、母校の統合、支部会員・役員の高齢化、新規加入会員が期待できない等の理由により、弊支部同窓会の存続が危ぶまれる状態となっております。

東京同窓会の皆様には、今後とも温かいご支援、ご理解をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご活躍を祈念して近況報告といたします。

須商東京同窓会事務局だより

2013年度 経過報告 2013. 12. 20 須商東京同窓会事務局

- 登録会員数
 - 終身会員

2012. 10. 末	213名	
住所不明退会	2名	[住所不明 (富澤久造 S28 中野 貴司 S30)]
(2013. 03. 末)	211名	
死亡	2名	(青木 悟 S25 宮沢正人 S31)
(2013. 10. 25)	209名	うち[住所不明 (荒井鐘司 S30)]
 - 年会員

2012. 10. 末	58名	(未更新18名)
更新	10名	
未更新	8名	
(2013. 03. 末)	50名	
更新	34名	
元会員再入会	6名	
新規会員	3名	
未更新	16名	
(2013. 10. 25)	59名	
(会員合計)	268名	
- 成美会誌の発刊について (2012年12月18日)
 昨年は、第19号を発刊しました。編集場所を「いずみ」として、事務局が一丸となって誌面づくりに取り組みました。
- 2012年同窓会総会后、年度末までに
 (寄付金) 会員より (2名 2,000円) をいただきました。
 (賛助会) 賛助会員より (12名 18,000円) をいただきました。
- 2013年同窓会総会の案内状送付後、11月21日までに
 (寄付金) 会員より (51名 217,200円) をいただきました。
- 須商HPに成美会誌19号を掲載 インターネット「須坂商業」「同窓会」で検索できます。
 (<http://www.nagano-c.ed.jp/susho-hs/index.html>)

事務局 活動日誌

★ 2013年 ★

- | | | | | |
|-------|--|-------|--------------------------|---------------|
| 01/22 | 02/14 | 03/31 | ・(賛助会員・寄付者) に礼状発送 | 14名 |
| 04/18 | 期別幹事会① | | ・経過報告/決算報告/2013年度活動計画 | 8名 (伊豆 サン&サン) |
| 08/06 | 期別幹事会② | | ・須坂商業の廃止に伴う、今後の東京同窓会について | 9名 (いずみ) |
| 09/05 | 期別幹事会③ | | ・総会内容・案内状・今後の東京同窓会について | 11名 (いずみ) |
| 09/18 | 総会実行委員会① | | ・総会案内状発送 | 4名 (いずみ) |
| | (終身会員211名 年会員50名 首都圏在住 22名 その他 7名 合計 290名) | | | |
| 10/03 | 総会実行委員会② | | ・総会内容確認 | 7名 (いずみ) |
| 11/02 | 同窓会総会 | | ・出席者確認/総会印刷資料配布 参加者 | 53名 (田町ハイレーン) |

須商東京同窓会2012年度決算報告書
(2012年4月1日～2013年3月31日)

収入の部		支出の部		単位
	金額			円
前年度繰越金	623,492	事務局会議費用 (内補助金 75,770)	218,770	
事務局会議会費	143,000	母校同窓会総会参加費用	27,520	
総会会費	217,000	須商東京同窓会総会費用	248,371	
年会費 (総会后)	52,000 (13,000)	成美会誌 印刷・郵送代等	140,130	
寄付金 (総会后)	187,000 (2,000)	その他消耗品等 (インク代・トナー代)	5,490	
賛助金 (総会后)	18,000 (18,000)	払込料金・振込手数料 (郵便局・銀行)	11,380	
ご祝儀(母校・同窓会)	30,000	次年度繰越金	618,926	
銀行預金利息	95			
合計	1,270,587	合計	1,270,587	

監査報告

2012年度事業報告および収支計算等、関連諸帳簿、証憑書類等の提示を求め所定の監査を実施した。その財源、用途および当該年度における財政状態を適正に表示し且つ正確であることを認めました。よって、ここに報告します。

2013年4月10日

監査役

齊藤 裕三



上記のとおり報告いたします。

2013年4月10日

代表

蜂谷 雅



物 故 者

◆ ご冥福をお祈りいたします ◆

昭25年卒 青 木 悟 (終身・元会長) H25年4月 昭40年卒 浅 岡 忠 男 (首都圏在住) H25年2月
 昭31年卒 宮 沢 正 人 (終身) H25年12月

ふるさととは 心の泉

黒岩 幸衛 (昭和16年卒)



善光寺平の拡がりの中を滔々^{とうとう}と千曲川が流れている。幅1キロ近い河川敷をも超えて、長い朱色の鉄橋が、架かっている。「村山橋」と呼ばれている。その東端にある部落「村山」に私の生家があった。

養蚕が盛んだった昭和の初期頃、その辺りは一面の桑畑で、養蚕一家の我が家ではとても忙しく、登校前でも朝早くから桑摘みや、畑仕事の手伝いに駆り出されるので村中の評判にもなっていたようだ。

折角実りかけた果実や野菜などが、大雨で濁流にやられる年もあって、堤防の外側は悩みの種になっていたが、この西土堤には、幼い頃からの想い出がいっぱい残っている。

冬には手製の雪そりや竹スキーを楽しみ、春風が吹く頃には自慢の凧揚げを競ったことも忘れられない。昭和16年春、実社会に旅立ってからは、年に一度の「ふるさと帰り」母手作りの茄子餡・おそばを頂いた後、必ずこの堤防に立って懐旧の情に心を癒したものである。

時は流れてあの頃の河川敷一帯が見渡す限りの桃畑に変わっていて、春ともなればピンクの絨毯を敷きつめて、その遠景に飯綱・戸隠・黒姫の山々が白銀を頂いて横たわる。晴れた日には遠望北アルプスも興を添えて、正に絶景、絵心躍る思いである。

振り返り見れば、その昔キャンプした雪の菅平が輝いて、根子岳を源流とする百々川扇状地、須坂も、糸の街から大きく変貌を遂げているようだ。若い世代を学び過ごした「母校」、須坂商業の校歌の一節が胸裏をかすめる。♪成美の教え、人にあり ♪人生の事業、我にあり

あと一か月で「卒寿」の人生峠に立つ時、夜毎さ迷い見る夢は、懐しく楽しかったふるさとの想い出ばかり、その一篇を綴ってみた。

“わが家の歌”
故郷に誓う

作詩 黒岩幸衛
作曲 中根清

一、雪に輝くアルプスに
映ゆる千曲の水遠く
おやまぬ流れ けがれぬ血潮
若き命のはらからは
朝の光に芽生えたり

二、林檎花咲く思い出の
丘に陽炎もえ立てば
あゝ青雲の意気高く
希望のにじを仰ぎつゝ
強き誓いに立ち上る

三、幾山河の遠き地も
心は通う故郷の夢
やさしき父母を胸にして
かたみに腕を組みかわし
清き誠の道を行く

四、今故郷に帰り来て
集う歓喜の団樂に
いさおをたゝえ ねざらいて
声高らかに歌う時
月もほゝえむ秋今宵

二八一〇、一一

須商同窓会・大阪発～発足してもうすぐ60周年

支部事務局長 小嶋 啓治 (昭和36年卒)

今年も近畿支部総会は盛大になりました。

須坂商業の名称が無くなるのはさみしい限りですが、平成27年開校の「須坂創成高等学校(仮称)」おめでとうございます。

盛り上がる高校野球選手権大会へ、一日も早く出場して、近畿支部同窓会一同は甲子園球場のバックスクリーンに校歌が映し出され、アルプススタンドから声高らかに歌うのが夢です。大いに期待しています。

歴史ある須商同窓会近畿支部も60周年を迎えます。新しい歴史が築ければと念じています。



(上段) 越・立岩・島田・原田・西宮・峯村・板倉
(中段) 上野・坂田・羽生田・岩野・小嶋・松沢
(下段) 和田・市川・飯塚教頭・荒井会長・小林支部長・瀧沢

昭和29年卒 (高6回生) 関東地区同級会開催

兵藤 武 (昭和29年卒)

平成25年3月3日草津温泉(ホテル高松)で同期会を開催しました。

今回は地元から山崎・渡辺・西野の3名が参加し17名で喜寿の祝いをおかねて学生時代を回顧、現況等を語り合い楽しく、有意義な一時を過ごしました。

次回(平成26年)もまた元気で会うことを約束して散会した。



写真上段左より 黒岩・田子・小山・山岸・三木
駒津・上澤・春原・樋口・富岡・山崎
兵藤・渡辺・牧・阿部・松沢・西野

千曲川ふたり旅

高相 博 澄 (昭和37年卒)

昨年、妻と桜満開の上田から須坂までを手始めに、実りの秋までの6回にわたり、源流地点の川上村から新潟県境の栄村まで214kmを妻とふたり徒歩で制覇した。

○栄村と向きを変えた地蔵

栄村は東日本大震災の翌日に、震度6強の「長野北部地震」が発生した村で2時間足らずの間に震度6の揺れに3度見舞われ、道路や鉄道は寸断された。地震から1年3カ月が経ち、あちこちで道路工事が行われ、遠回りを余儀なくされた。宿で「隣の西大滝ダム近くの地蔵が地震で栄村の方を向いた」と聞いた。地震の影響で高さ約70センチの地蔵7体のうち、土台を固めた1体を除く6体が90度、栄村方向に向きを変えている。



住民たちは「地蔵さんが守ってくれた」「復興を見守っているのでは」と話しているという。

○千曲川源流地点

川上村の毛木場駐車場(標高1,460m)は甲武信ヶ岳(2,475m)等への登山コースの入口であり、甲武信ヶ岳は甲州・武蔵・信州の分水嶺で、それぞれ笛吹川、荒川、千曲川の源流になっている。

木漏れ日の中を千曲川のせせらぎを聞きながら、源流地点目指す。カラマツ林、その後、シラカバ・ダケカンバ林と進む。源流近くになると、針葉樹林帯に入り、アズマシャクナゲもまじる。時々、小川になった千曲川も顔を出す。いくつかの支流を越して、12時頃、源流地点に到着した。

「千曲川信濃川水源標」が誇らしげに立っている。地標は30cm角で高さ3m程あり、ヘリコプターで運んだと聞いた。少し下った所から水が湧き出ていて源流地点が実感出来る。冷たい水で喉を潤す。

帰りにシカ2頭を見かけた。川上村は山側がシカ除けフェンスで被われ、高原野菜を守っている。中央を千曲川が流れ、集落と高原野菜畑が交互にある。

丁度、レタスの収穫時期で、鮮度を保つため時間との闘いとのこと。

役場に併設された純血種川上犬の飼育施設があり、子犬を含め10頭程がしっぽを振っていた。

川上犬は昔、猟師がヤマイヌを飼い慣らしたといわれ、凛とした風貌の小型日本犬である。



○徒歩を振り返って

千曲川の上流域では高原野菜の灌漑用水、水力発電所、イワナ・鯉の養殖で利用され、佐久地区の伏流水は名が通った蔵元の日本酒となる。又、清流のバイカモ(梅花藻)は心を癒やしてくれ、アケビの甘い実は少年の頃を思い出させてくれた。

下流域は桜の並木道、親水公園等で多くの方がウォーキング・ゲートボールを楽しんでいた。

釣りは全流域で行われていて、佐久市では丁度、ニジマスの釣り大会で沢山の釣り人で賑わっていた。松原湖の湖畔には外来魚を有料で引き取る看板があり、中野市の支流ではブルーギルを釣った親子を見かけた。私自身5年ほど前に、ブラックバスを釣った人を見た。千曲川も外来魚に侵されている。

道に迷った時や郵便局の雨宿りなどで親切な人達ともめぐりあった。また、松代では「大島博光記念館」に立ち寄った。大島博光は松代出身の詩人で千曲川を「母なる千曲川」と慕ったという。

徒歩でこそわかる、信州再発見の旅でした。

うなぎの寝床で学ぶ

坂口清実 (昭和26年工業科卒)

第二次世界大戦中の昭和20年4月、須坂工業学校(昭和18年、須商に工業科併設)に入学した(但し、終戦後の昭和21年度から工業科募集中止、商業科のみ募集再開)。入学はしたものの戦争が激化し、一学期は授業が殆んどなく、出征兵士宅の農家に勤労奉仕に駆り出された。

先輩は、近くの軍事工場に学徒動員され、一週間に一度学校に来て、後輩の御説教に明け暮れた。

当時の校舎は、旧製糸工場の細長い建物(木造平屋建て)を使って、一番端に講堂兼体育館が新築されていた。誰が名付けたか、まさに「うなぎの寝床」の様相を呈していた。

その後、昭和23年の学制改革(六・三・三制)により、我々は、須坂商工高校併設中学三年に編入された。この時須坂町内に高校四つも要らないという事で本校の存続が危機にさらされた。その時、併設中学3年生、2年生は、出身の旧小学校(新制中学)に戻る噂があった。



うなぎの寝床

旧小学校に新制中学が開校し、本校の一年生の教室が空き、そこへ須坂森上小学の生徒が入ってきた。

さらに、本校(うなぎの寝床)は新制高校の基準に満たないと云う理由で存続は困難とされたが、ここで立ち上がったのが市村校長先生であった。

即ち、同校長先生の指揮の元で、在校生全員による学友林の埋木調査(目通り位置での直径を測る作業)を実施し、新校舎増築に必要な木材の有無を確認し、新校舎増築が実現されたのであった。食糧難の時代であり、校長先生がサツマイモを弁当に奮闘された姿が忘れられない。

昭和25年11月に新校舎が竣工したので、我等、昭和26年卒の工業科もうなぎの寝床から新校舎へ移り、約5か月間その恩恵を受けた。

このように激動の6年間同じ運命を辿った学友は、二六会を結成し、現在、文集「うなぎの寝床」を発行(現在十五号発行)し、須商が原点、その絆を深めている。



会員の手作り誌

東日本大震災に遭遇

宮城県仙台市在住 西沢弘文 (昭和40年卒)

2011年3月11日 午後2時46分それは、ボウリング場に行く途中で突然来た。ドーンという強い衝撃で停車した。

長い横揺れが続き、ボウリング場の建物も大きく揺れていた。とっさに地震だと思った。直ぐ自宅に引き返し、家の周囲を見たが特に変わった様子はなかった。ホッとしたのも束の間、中に入ってみると足の踏み場も無いほどメチャメチャに！靴のまま内に入ってみたがどうしようもない。

そのまま外に出た。消防車が「津波が来ている！津波だ」と連呼しながら猛スピードで走って行った。

その声に追い立てられる様に小学校に向かった。足元には既に津波が来ていた。屋上から辺りを見ると火災らしい煙が数ヶ所から出ていた。特に仙台港の石油コンビナート方面は真っ赤に染まっていた。校庭にも津波が押し寄せ、音を立てて流れていた。雪が降る寒い夜、連絡の取れない家族を思いながら一晩過ごした。

翌朝家に戻ると周囲は一変し、一面へドロで覆われていた。車、物置きなど津波で運ばれてきた物が幾重にも重なり山となっていた。自宅も床上浸水、娘の車は勤務先で津波に流されたが、二日後家族は無事に再会できた。

あれから二年半が過ぎ、大分落ち着いては来たが、復旧にはまだまだ時間が掛かりそうである。

全国から温かい御支援、又同級生の励まし等を頂き感激したことを思い出しています。誌面をお借りして改めてお礼申し上げます。本当に有難うございました。

東京同窓会とは、東京で単身赴任をしていた八年間のお付き合いです。楽しい思い出を沢山頂きました。併せてお礼申し上げます。



取り壊しが決まった宮城県南三陸町、防災センター

翼・・・つばさ

小林直治(昭和40年卒)



学び舎を去り社会に巣立つ若人よ飛翔せよとの願を込めて・・・
昭和40年3月発行の生徒会誌は、「翼」と銘うってリニューアル(通巻第6号)。

第1号から第5号までの表題は「須商」でしたが、編集委員会(拙者が編集委員長)で話し合い、表題と表紙デザインを募集することにしました。結果、表題は越川博文君の「翼」が当選、表紙は今や日本画面壇の巨匠である木村光宏君(名古屋市在住)のデザインが採用されました。両氏とも私と同期でした。

表紙のカラー化と内容の充実・・・資金集めのために皆で手分けして須坂市内の会社や商店にお願いして回り、沢山の広告を集めたことを思い出します。

あれから、48年。表題の「翼」は「つばさ」に変わったものの、後輩に脈々と繋がっていました。実に嬉しいことです。

今後、母校の校名が発展的に変わっても、後輩たちが社会で飛翔してほしいという、当時の生徒会誌「翼」の思いが引き継がれることを期待し、若人にエールを贈りたいと思います。

人生の節目に思う

丸山圭三(昭和31年卒)

まだまだ、俺は若いと思っていた。そんな時、須坂商業高校が統廃合により消えると言う話に戸惑いを感じ、一瞬めまいがした。でもどうにもならないようである。

七十六年の人生の生き様を振り返って見ようかと、先ず写真集・日記など引っ繰り返して見ました。思えば大東亜戦争が始まった頃からです。

だんだん雲行きが悪くなり、それぞれが避難場所として「防空壕」を隣組総出で掘っていました。そんな時「米軍B29」爆撃機が裏山にあった傷痍軍人病院を爆撃して行くのを目の当たりにしていた事、そして何日か後に、天皇陛下の敗戦のお言葉をラジオの前で聞きました。

当時我々には理解すら出来ず、ただ飢えをしのぐ事しかなかった。校庭はサツマイモ畑と化し、川魚・野草を取り田圃の落穂拾い、イナゴ取り、配給の「大豆の絞り粕」を貰って来た事を覚えています。

昭和29年当時狭き門であった「須坂商業高校」に入学ができました。当時の学校は今思えば「良くぞ耐えたうなぎの寝床」と言う校舎!! 始めの儀式が「新入生歓迎マラソン大会」であった。今でも私の精神・身体の鍛錬修練の糧として大いに役立っています。

また、運動が大好きな私「籠球部」に入り心身ともに鍛えられたと思っており、長野県内の標的になった実績もあります。

昭和31年卒、まだまだ就職難で集団就職組でしたが、夜行列車に乗り上野駅に着き職場へと行きましたが、性に合わず、一年で退社、自力で小さな会社に入社が出来ました。

ここは厳しかったが、自己主張を聞いてくれた。二年目から営業部に配属されて必死で得意先周りをした。その後、北の端から南は九州まで営業所造り支店造りと私の生涯を費やし、そして大阪支店で11年社業に励み、須商同窓会近畿支部と近畿長野県人会の皆様とも公私共に、お付き合いを戴きました事、先ずもって御礼を申し上げたいと思います。

そして、平成7年都合57年間いた会社を定年退職し、さいたま市に城を構え現在に至りました。

しかし、私は今須商が閉校となる事で「心の心棒」が何処かに行ってしまう寂しさを感じています。



S32籠球部県大会入賞記念
2年生のとき、前列中央が私

須商東京同窓会 2013年度登録会員 2013.12.20現在

項	卒年	氏名	項	卒年	氏名	項	卒年	氏名	項	卒年	氏名	項	卒年	氏名
(終身会員)			(終身会員)			(終身会員)			(終身会員)			(年会員)		
1	S11	丸山 茂忠	60	S30	小宮山豊茂	119	S34	坂口 昭男	178	S39	井浦 達郎	228	S39	西川 正昭
2	S13	堀 哲	61	S30	清水 純夫	120	S34	竹林 宏	179	S39	岩崎 幸夫	229	S40	岩井 和雄
3	S15	小林 伸嘉	62	S30	関野 定信	121	S34	土屋ま さ江	180	S39	久保田光子	230	S40	木村 光宏
4	S16	黒岩 幸衛	63	S30	竹内 好夫	122	S34	富澤 義良	181	S39	小林 幸久	231	S40	瀧沢 定幸
5	S17	北島 和夫	64	S30	竹腰 邦夫	123	S34	中島 勇一	182	S39	清水 博	232	S40	西沢 弘文
6	S17	黒岩 吉重	65	S30	中村 正夫	124	S34	西沢 和夫	183	S39	十木 哲夫	233	S40	森山 貞幸
7	S17	武藤喜二	66	S30	堀内 正啓	125	S34	堀内 正富	184	S39	中島 徹雄	234	S41	小川 安雄
8	S17	山岸 伍助	67	S30	前島 光秋	126	S34	牧 茂夫	185	S39	中山 勉	235	S41	片桐 正人
9	S18	小坂 重男	68	S30	宮崎 公雄	127	S34	増田 辰郎	186	S39	本間 良則	236	S41	勝山 功久
10	S18	田中 茂利	69	S30	村田美世子	128	S34	山岸 要	187	S39	宮澤 利二	237	S41	小山 俊久
11	S20	岡田 貞幸	70	S30	山口 和夫	129	S34	吉池 和紀	188	S39	米沢 正行	238	S42	宮越 公雄
12	S20	西川 正道	71	S30	涌井 邦雄	130	S35	市川 勝三	189	S40	有賀 信子	239	S43	神品富美子
13	S20	今井 忠一	72	S31	浅岡 良夫	131	S35	轟 忠三	190	S40	大峽 賀利	240	S43	竹内 勝一
14	S22	平野 宗雄	73	S31	池田 明治	132	S35	中島 確	191	S40	小田 彰	241	S43	中島 貞子
15	S25	大久保 勲	74	S31	井上ます江	133	S35	中島 賢郎	192	S40	児島 稔	242	S43	宮越 薫
16	S26	小林 武	75	S31	江守 孝吉	134	S35	藤沢 郁夫	193	S40	小林 直治	243	S44	稲 準義
17	S26	小林 幸一	76	S31	小澤 一雄	135	S35	和気 岩夫	194	S40	渋谷 一男	244	S44	中沢 邦芳
18	S26	外谷 幸治	77	S31	越 勝	136	S35	小野 文雄	195	S40	返町 敦雄	245	S44	山田 哲男
19	S26	中村 裕治	78	S31	小林 良則	137	S35	久保 寿夫	196	S40	滝沢満由美	246	S46	畔上 健
20	S27	勝山 好次	79	S31	小山 恭子	138	S36	河野 廣志	197	S40	檀原 憲治	247	S47	荒城 三夫
21	S27	桑原 宣夫	80	S31	小山 文夫	139	S36	竹原 忠迪	198	S40	中澤 功夫	248	S47	金井 年男
22	S27	須田 博明	81	S31	坂口 邦一	140	S36	中澤 慎一	199	S40	中嶋 和男	249	S48	田牧 博
23	S27	細貝 文夫	82	S31	角田 實	141	S36	中島 洋	200	S40	尾畑 良子	250	S48	森山 正道
24	S27	宮澤 義直	83	S31	中沢 道生	142	S36	中村 武徳	201	S40	三井 克保	251	S52	轟方 新一
25	S27	邨沢 晴資	84	S31	中嶋 満	143	S36	羽生田文男	202	S41	江守 四郎	252	S55	宮崎 一正
26	S28	市川 直	85	S31	浜野 成一	144	S36	藤沢 嵩	203	S41	片桐 正昭	(年会員・未入金)		
27	S28	石田 勝衛	86	S31	疋田 雅博	145	S36	本井 春二	204	S41	北沢 博	253	S27	小林 正義
28	S28	伊東 嘉人	87	S31	平尾 雄市	146	S36	渡辺 和雄	205	S41	清水 勲	254	S29	山田はるえ
29	S28	今井 元朗	88	S31	藤沢 三男	147	S37	青木 則夫	206	S41	滝沢 則雄	255	S30	白井 敏
30	S28	遠藤 益雄	89	S31	丸山 圭三	148	S37	天野 清志	207	S41	水野 進	256	S35	北沢 章司
31	S28	木下 啓	90	S31	宮澤 文三	149	S37	黒岩清四郎	208	S42	佐藤今朝雄	257	S35	和智ヤチ子
32	S28	小山 純夫	91	S31	宮澤 政人	150	S37	坂本 俊彦	(終身会員・住所不明者)			258	S37	割田 實
33	S28	返町 賢治	92	S31	森山 徳男	151	S37	佐藤 喜重	209	S30	荒井 鐘司	259	S38	岩野 久可
34	S28	滝澤 溥生	93	S31	横谷 亮	152	S37	篠原 正勝	住所不明者をご存知の方は 事務局までお知らせ下さい			260	S38	樽澤 輝男
35	S28	富沢 利夫	94	S31	吉澤 利勝	153	S37	篠原 守	(年会員)			261	S40	舟見 弘三
36	S28	藤沢 孝行	95	S32	市川 貞雄	154	S37	高相 博澄	210	S16	青木 忠夫	262	S41	黒岩 敬子
37	S28	藤沢 宏行	96	S32	勝山 袈人	155	S37	原 武夫	211	S23	平野 智久	263	S41	篠塚 啓喜
38	S28	牧 栄蔵	97	S32	神林幸次郎	156	S37	宮澤 直	212	S25	唐澤 敏雄	264	S41	坪井 正身
39	S28	松澤 仲男	98	S32	倉根美代子	157	S38	阿部 桂子	213	S26	坂口 清実	265	S43	手塚 良一
40	S28	宮沢 登	99	S32	小森 富男	158	S38	尾田 豊文	214	S27	小滝 公弘	266	S43	山浦 清志
41	S28	宮沢 弘	100	S32	斉藤 裕三	159	S38	川上 芳雄	215	S29	原田 秀穂	267	S44	桜井 公和
42	S29	阿部 邦夫	101	S32	村石 光夫	160	S38	北島佐恵子	216	S29	牧 弘三	268	S56	中村 幸夫
43	S29	上澤 輝男	102	S32	吉沢 市雄	161	S38	黒岩 孝一	217	S31	中村 拓治	(賛助会員)		
44	S29	草間 常子	103	S32	吉田 正光	162	S38	小泉 充男	218	S33	吉原 正宣	269	S18	勝山 義三
45	S29	小山 英二	104	S33	石川 和行	163	S38	古若井厚夫	219	S34	熊瀬川武久	270	S30	町田 邦子
46	S29	鈴木 澄夫	105	S33	泉 英二	164	S38	小林 義昭	220	S34	倉島 欣一	271	S32	岩下 長八
47	S29	高木 修	106	S33	伊藤 好徳	165	S38	関 昌雄	221	S34	小坂 公男	272	S32	佐藤 八郎
48	S29	中村 芳子	107	S33	加藤 四郎	166	S38	土屋 眞五	222	S34	越 保二郎	273	S33	湯浅 慶幸
49	S29	兵藤 武	108	S33	上總美佐子	167	S38	遠山 増郎	223	S35	田幸 義章	274	S34	吉原 義夫
50	S30	荒木 穰	109	S33	小林 勤	168	S38	西沢 捷二	224	S37	池田 晃	275	S36	臥竜36会
51	S30	市川 善弘	110	S33	角田 英雄	169	S38	根岸嘉一郎	225	S37	高見沢敏治	276		竹内耕健
52	S30	上野原英雄	111	S33	豊田 武男	170	S38	蜂谷 雅人	226	S38	小淵 重雄	277	S38	中村 謙吉
53	S30	大淵 恵子	112	S33	広田 俊三	171	S38	牧 仁政	227	S39	小嶋 武吉	278	S38	山崎 博正
54	S30	岡宮 経雄	113	S33	牧 袈装二	172	S38	村石 久二	228			279	S40	伊礼みつ子
55	S30	落合 光雄	114	S33	松澤 貞信	173	S38	盛田 登	229			280	S40	丸山憲太郎
56	S30	勝野 甚吉	115	S33	柳澤 吉夫	174	S38	矢島 公成						
57	S30	上平 みよ	116	S34	加藤 金治	175	S38	湯本 俊雄						
58	S30	河村 省三	117	S34	菊池 京子	176	S38	割田 隆						
59	S30	神田 實	118	S34	駒津 勝	177	S39	安財 達志						

須商東京同窓会 役員名簿

項	役職	卒年	氏名	項	役職	卒年	氏名	項	役職	卒年	氏名
1	顧問	S31	池田 明治	6	副代表	S40	有賀 信子	11	会計	S42	佐藤今朝雄
2	顧問	S31	浅岡 良夫	7	副代表	S43	中島 貞子	12	会計監査	S32	斉藤 裕三
3	顧問	S40	小田 彰	8	事務局長	S39	中山 勉	13	幹事	S41	小山 俊久
4	代表	S38	蜂谷 雅人	9	事務局長(代)	S37	高相 博澄	14	幹事	S47	金井 年男
5	副代表	S33	泉 英二	10	事務局長(代)	S40	小林 直治				

みなさんからの

お便り



堀 哲 (昭和13年卒)

前略、ご苦労さまです。本人、現在九十二才の老人にて入院しております。

小林 伸嘉 (昭和15年卒)

平成二十九年から須商の名称が消えてしまうことは時代の流れと申せ、私にとっては「須商 頑張れ！」「須商 頑張れ！」の激励言葉が二度と聞こえ無くなってしまう、さびしさが身に沁みてきます。「思い出深き須商！ さようなら須商！」

北島 和夫 (昭和17年卒)

足腰の弱体激しく、遠出が困難となつてしまいました。皆様よろしくお願ひします。

山岸 伍助 (昭和17年卒)

私達昭和十七卒は、太平洋戦争真っ只中で卒業も三ヶ月繰り上げられ、十二月卒業、翌一月就職となりました。当時大方の同級生は、軍需工場や役所に就職しましたが、私は学校の推薦で平和産業と言われた銀行に入行しました。

以後、戦中・戦後十年位の間、食料や衣料品不足等に悩まされ乍ら家

族を伴い、北は北海道から西は大坂まで転勤、無事定年となり、第二の職場で米寿を迎え、健康で働くことに、感謝の日々を過すしていただきます。

田中 茂利 (昭和18年卒)

日頃、体操ボランティアとして元気で活動の処、たまたま腹部大動脈瘤が見つかり、六月十一日と十四日と二度手術をしました。今は従来どおり、週五日の公園体操に参加しています。

この病気は殆んど自覚症状がなく、男性高齢者に多く、最近では女性にも増えている由、動脈硬化が原因の一つであり、血圧・塩分・ストレスが要注意とのことです。適時CT検査をおすすめします。

私の手術はカテーテル・ステントグラストで人口血管の挿入です。退院後、大事をとつて遠出(?)宴席は遠慮しています。(ちなみに私は米寿になります。)

西川 正道 (昭和20年卒)

【母校の思い出】

私の学年(昭和十六年)は入学試験がなく小学校の推薦で、その上、戦時下特別の繰り上げ四年で卒業でした。学業は、約三年で、その間、春・秋に勤労奉仕、山田牧場の開墾等がありました。

私は虚弱体質でしたので、昭和十九年三月の期末試験を病気に欠

席、追試験なく、進級した経緯がありました。でも、この年、軍関係の志願と学徒動員を経験しました。

陸軍は特幹(船舶)に志願、不合格(体重・胸囲、規定不足による)。海軍は甲種飛行予科練習生を志願、体重・胸囲共、規定不足でも合格しました。学徒動員では、鳴海(名古屋)の住友軽金属へ派遣され約二ヶ月奉仕して一海軍(九月)へ。

海軍は合格と同時に土浦海軍飛行隊へ入隊。終戦で復員。

復員による学校への復学はできなく、昭和二十年三月卒業とさせて頂きました。昭和二十二年、戦後の混乱期に縁があり、旧富士銀行の前身安田銀行(本店)へ十一月中途入行、以後、無事定年退職、現在にいたつております。

平野 宗雄 (昭和22年卒)

【故郷は遠きにおいて思うもの】

第二次大戦後、須商を卒業し、東京に参りました。今、思えば考えられないような生活の毎日でした。生死をさ迷うほどの病になったことが一度ありました。

その後、なんとか生活ができるようになり、須商の東京同窓会事務局を約十年間程、させて頂きました。時代の移り変わりも激しく、須商も園芸と再編統合が行われ、須坂創成高等学校へ(仮称)生まれ変わ

る由、感無量です。「人生の事業我にあり」です。

大久保 勲 (昭和25年卒)

左官業に惚れこんで須坂工業学校を受験・入学、二年生の夏終戦、四年生になったとき商業科が復活、須坂商工高等学校となった。昭和二十五年卒業した。

近々学校の再編統合・同窓会の解散、少子化がなせる禍か。

その筋の学者の算定によれば、四百年後の日本の人口は、7人になってしまうとか、こんなことを許せる訳がない。

いつか必ずや奮起して、V字回復することを信じ、我が母校の百年後を楽しみにしたい。

唐沢 敏雄 (昭和25年卒)

【母校の思い出】

戦争中当時東京に住んでいた。私は小学校六年の昭和十九年三月卒業式を待たずに、母の実家のある須坂へ疎開し、母校へ入学しました。当時は工業学校で土木科でした。その後、日本全土で空襲が激しくなり、疎開児童が増え、一時は六十名近くになりました。

戦後学制改革により新制高校になり、商業科と工業科に分かれ、私は商業科に入り、クラスは十六名でした。六年間の母校での体験は貴重な経験でした。

坂口 清美 (昭和26年卒)

私は、戦時体制下の昭和二十年四月、須坂工業学校に入学、以後、学制改革を経て、須坂商工高校を昭和二十六年三月卒業。卒業時に商業科の就職率100%と新聞報道されたが、工業科はゼロに近かった。しかし、卒後のクラス会で知ったが殆んどの人が土木職に就いており、六年間の授業料を無駄にしなかった努力に、熱い思いを感じた。その後、須坂商業高校に改称されたが、我々の原点は須商である、と今以つてその絆は強い。

外谷 幸治 (昭和26年卒)

昭和二十六年「ウナギの寝床」の卒業生で八十一歳です。原発反対、消費税は止めろ、憲法改悪はするな、などで若い者と手と手をつないでいます。皆さんも地球を守るため、何らかの手を貸して下さい。私の孫たち、九人と共に頑張っています。

小滝 公弘 (昭和27年卒)

皆さんこんにちは、故郷を出て早や六十年が過ぎました。最近は今頃須坂の臥竜山を思い出します。

今はカラオケ、ゴルフ等をやつて何とか健康を維持して居ります。市立集会所の管理人をして居ります。次回には是非参加したいと思つて居ります。最後に同窓会の幹事様はじめ、会

員の皆様のご発展とご健康を、心よりお祈り申し上げます。

伊東 嘉人 (昭和28年卒)

歴代の世話人の方々、長い間ご苦労様でした。校名変更の他、成美会誌、東京同窓会解散等々淋しい思いです。

卒業後、母校を訪ねる機会がありませんでしたが、木造校舎「ウナギの寝床」と云われた教室での学生生活がひととき懐しく思い出されます。

統合後も「須商健児」の思いを胸に活躍されますよう期待しています。

小山 純夫 (昭和28年卒)

伝統ある母校の名が消えることは誠に残念である。「ウナギの寝床」と云われた、昔の校舎がなつかしく思い出され、当時の先生方に我がまま云いつつ、良き指導を受け、幸いにも大手の会社に就職できたことに、深く感謝をしております。

会社定年後は行政のボランティアや老人会の世話役など、又、区の体育館でスポーツを通して、人々との交流も深め、健康の維持に努めております。同窓会の幹事役の方々大変ご苦労さまです。

宮沢 登 (昭和28年卒)

元気で毎日一万歩以上を目標にウォーキングをして頑張っています。

七十九歳、結婚五十年、金婚式と来年は八十歳になるので、家族に迷惑をかけない様に、孫の成長を楽しみに、家内と仲良く毎日を大事に暮らしています。

また、年に一度は、兄弟全員で渋温泉に一泊し、帰りに母校の須商の前を通り、懐しく見ながら帰つてきます。

皆様の健康をお祈り致します。

宮澤 弘 (昭和28年卒)

【在学中の思い出】
山岳部にて白馬岳から針ノ木岳方面へ縦走の途中、私には大変でしたが、一番の思い出です。

浅間山に登った時、火口の中に溶岩が赤く見えた。その何日か後に、浅間山が噴火して高校生が登山中にケガされた記憶に間違いでなければ、そのようなことがあった。

志賀高原の春夏秋冬とキャンプ、スキーの思い出、八ヶ岳(赤岳、硫黄岳、権現岳等の八峰が連なる山)の眺めが良かった。懐かしい沢山の思い出です。

兵藤 武 (昭和29年卒)

東京同窓会が解散することになり、今まで幹事の方々本当にご苦労様でした。

同窓会に今まで出席して、須商時代の思い出など、楽しく皆様と語り合う機会が出来ましたことに感謝しております。

小宮山豊茂 (昭和30年卒)

校名が無くなることはとても残念です。

学校跡地の一角に、記念碑の設置を、県にお願いしたらどうだろう。

前島 光秋 (昭和30年卒)

母校の校名から商業の二文字が消えることは誠に寂しく、複雑な気持ちがある。持が今の実感です。しかし、全国的に少子化に伴う学校の統廃合も、時代の流れと受けとめております。今後は新しい校名を柱に更にくまなく発展されますよう心から願っています。

同窓会の閉鎖は開設より大きなエネルギーが必要かと思ひます。幹事、役員の方々に大変なお仕事を願う事態となりました。

解散は皆さん方のお力で最後の幕引きをどうか立派に執行、成し遂げて下さい。ありがとうございます。

山口 和夫 (昭和30年卒)

ふるさと、そして母校は懐かしい。私の心の中に生きています。

小澤 一雄 (昭和31年卒)

時流の仕業で止むを得ないことは言え、誠に残念なことになりました。この度の解散決定は苦渋の英断と、深甚なる敬意を表します。

永年に涉り、須商東京同窓会の運営と発展に、多大の貢献とご尽力

をされた歴代会長・役員・並びに会員の皆様に厚く感謝申し上げます。

築いて頂きました須商健児の絆は、「永遠に不滅」です。長い間、大変お世話になりました。皆様の益々のご多幸をお祈りいたします。

角田 實 (昭和31年卒)

いつも大変ご苦勞さまです。感謝しております。

九月に「敬老のつどい」に出席し、健康の有り難さを感じ、楽しい一時を過しました。

同窓会には都合により出席出来ません。

「ご盛会をお祈りします。」

越 勝 (昭和31年卒)

会長様はじめ幹事の皆様、本当にご苦勞様です。私事、至つて健康に過しております。

さて、この度、折角のご案内を頂きましたが、予定がつかず申し訳ありませんが、欠席させていただきます。

昭和二十八年「須商」に入学、平成二十八年度、再編統合により「改名」されるとのこと、不思議な二十八年です。

一年B組、原先生が担任で、平屋「うなぎの寝床」からスタートしたことを鮮明に覚えております。

一度馬場町へ行ってみようとと思います。

小山 文夫 (昭和31年卒)

三十年以上にわたり世界の遺産として栄えた歴史的な都市の様々な壁画や、モザイク複雑模様のタイルで覆われた廟やモスク、教会・寺院などの色彩・デザイン・技術や文化に魅せられ続けています。多様な民族の足跡が各地に刻まれ、多様な景観や、凝縮された鮮やかなモザイク模様など探求し続けています。

今年も世界一モザイクの国、チュニジアを再び訪れて、優秀な技術文化の喜びにひたりました。

坂口 邦一 (昭和31年卒)

【成美会誌と同窓会】

東京同窓会もいよいよ終幕の時が訪れようとしています。連続20年の同窓会の開催と成美会誌の20号の発行は切り離すことは出来ませんでした。その昔は何年間隔で開催されていた状況でした。当初、継続の開催が可能かの意見もありましたが、それを支えたのが成美会誌の発行と会費の納入制度を取り入れたことです。

さらに事務局を作り共同作業で支えあつたことです。

この20年間の一番の思いでは、事務局長時代、青木会長と「須商甚句」を作つたことです。

これからも「須商甚句」が気持ちを支え続けてくれることでしょう。

浜野 成一 (昭和31年卒)

同窓会の皆様、毎回楽しい一時を過ごさせて頂き、ありがとうございます。

これも歴代の会長、幹事さんの努力があつての事、感謝に絶えません。

会には三十余年お世話になりましたが、その都度、田舎を思い出し、仲間に加え、また情報を得て世間が広がり、大変有意義な会でありました。

そして、自分を支えてきたのは同窓・同郷を共有できる人達であり、どういふ形であれ、おおらかに過ごせた事であります。「須商東京同窓会 ばんざーい」

疋田 雅博 (昭和31年卒)

卒業して半世紀以上となりますが、この間、東京同窓会では多くの思い出を残すことができ、感謝しております。

歴代の役員の皆様、ありがとうございます。現在は時々スポーツクラブに行きながら、あまり変化の無い日々を過しております。

藤沢 三男 (昭和31年卒)

【残念 残念】

帰郷のたびに須坂駅からタクシーで、須商の校門前を行き来するも、無くなるのは時代の流れか、本当に残念です。

吉澤 利勝 (昭和31年卒)

【母校(須商)の思い出】

農業を手伝いながらの通学、太い指にたこ、本を開く時間も乏しい状況で、二級ではあるが在学中に珠算と簿記実務検定に合格、この事は努力すれば叶う、大きな自信となりました。

念願の甲子園出場、甥の徳明君は五番三塁手、豊橋から家族三人で合流、今治西には惜敗したが初陣の勇姿は忘れない。

汗染み込んだ赤緑色の須商応援団扇は母校の誇り、今も大切に持っている。

倉根美代子 (昭和32年卒)

年月の流れるのは早いものです。

後期高齢者の仲間入りし、思い出すのは故郷や共に過ごした須商時代の事です。

子供達の迷惑にならずに、元気に過ごせたらと思っております。

健康が第一ですので、皆様も、元氣にお過ごし下さいますよう祈っております。

斎藤 裕三 (昭和32年卒)

わが人生七十五年「年取れば、転ぶな、風邪ひくな、義理を欠け」幸い五臓六腑は順調に稼働中(あちこちの関節には少々難あり)

世の中の荒れ様に、悲憤慷慨しながらも元気に暮しております。

みなさんまた会う日まで、お元氣

でガンバロー!

泉 英二 (昭和33年卒)

学校を卒業して故郷をはなれて五十五年になります。六十九歳の時に妻を亡くし一人になりましたが、元気で暮らすのが大切であると思ひ、今は趣味のゴルフ・スキー・スポーツジムに行つて楽しんでいきます。今後も健康維持のため、続けたいと思ひます。

小林 勤 (昭和33年卒)

【ウォーキングを楽しむ】
私は日頃、当日の予定の中に天候を確認して、ウォーキングを加えています。

ある時、公共交通機関を利用して、目的地近くまで出掛けて行き、帰路はウォーキングです。ある時は大きい川沿いのウォーキングであつたり、高木の通りのウォークであつたりです。行き交う方々との挨拶を忘れず。また、途中のグラウンドでの少年野球の応援したりです。

牧 袈裟二 (昭和33年卒)

母校が再編統合の話に時代の流れを感じました。残念ではありますが仕方ありません。

母校の思い出、特に校門の桜は、今も小生の心の中で、美しく咲き続けています。

ところで、今、小生はポケ防止のため、今までできなかった夢の実現に、

燃えております。

吉原 正宣 (昭和33年卒)

役員の皆様お疲れ様です。須商を卒業して五十五年、齢七十三歳となりました。幸いにも健康に恵まれ、太極拳やソフトボールを楽しんでいます。

今、孫たちが高校や中学校へ通学していますが、自分の高校時代とあまりに環境が違いすぎて、祖父としての存在が薄くなりつつあり、一抹の寂しさを感じます。インターネット・スマホにチャレンジしたいと思う今日この頃です。

小坂 公男 (昭和34年卒)

十二年前の定年退職を機に、団地の住所を伊勢原市の在に移し、百坪の畑を借りて野菜作りをしています。

趣味は謡曲と昼カラオケです。謡曲は公民館で先生に八年間習ひ、その後生徒六人で会をつくり、一回三時間で月三回謡つています。昼カラオケは、前の職場の同僚、三・四人で隔月に行きます。それからウエステイのワンチャンと十五年間家族でしたが、九月に亡くなり寂しくなりました。

倉島 欣一 (昭和34年卒)

母校が再編統合され名前が変わつてしまふのは残念ですが、思い出は残りますよ! 故郷を離れて五十

四年になりますが、時々懐しく想つていきます。

永年勤めた会社は、来年百二十周年を迎えます。OB会の東京支部の世話人として、いろんな皆さんと交流しています。

又、地域の住民の人達とも、カラオケ、防犯パトロールなどで親密にさせてもらつています。これから人との交流を大事にして、生きていきたいです。

土屋 江 (昭和34年卒)

上京して五十年、須商で学んだ事、すべて仕事に役立ちました。今は仕事の合間に、四季の草花を育てて楽しんでいきます。

藤沢 郁夫 (昭和35年卒)

信州から都会に就職しましたが、今では茨城の田舎の独居老人です。元気なうちに一度は同窓会に参加したいと思つていましたが、交通事故に遭遇、以降遠距離歩行が困難になり実現せずになっています。

この度、成美会誌は東京同窓会解散に伴い終了することを聞き、寂しいと言ふかお名残惜しく残念に思っています。

中澤 慎也 (昭和36年卒)

卒業生には、医師・弁護士・公認会計士・税理士等になった人。また、全国商業高等学校簿記大会に二年連続団体優勝、野球部の甲

子園出場も今は昔か?

須坂園芸高校と再編統合とは複雑な心境だな。これも時代の流れか。母校の思い出は、英語と簿記会計の授業は楽しかった。

健康に留意して、生活する様に努力しています。

中村 武徳 (昭和36年卒)

大変申し訳ありません。十一月二日〜三日と行事日程が入つており、誠に残念ながら、東京同窓会には参加出来ません。東京同窓会の解散、成美会誌の終結などなど、母校の再編統合などを含む、大きな変化のうねりの中で関係役員の方々のご苦労も、いかばかりかと推察しています。長い間お世話になり、ありがとうございました。

藤沢 嵩 (昭和36年卒)

元気で暮しています。「人生の事業、我にあり」校歌の一節に励まされ、感銘していました。母校よありがとう。

本井 春三 (昭和36年卒)

長年の成美会誌編集ご苦労さまでした。小生は平成十三年から同窓会に入会し、十七年には同期十名と最も多数が集まり、一・二次会と楽しい一夜を過ごせました。一方地元では、須商臥竜三六会が

発足し、今後とも継続を期すとのこと。これらの模様の一部は、成美会誌に三回程取り上げてもらいました。また、母校の創立八十周年記念式典に出席しましたが、母校が再編統合されるとの由、須商の良き伝統が引き継がれるよう、祈念しております。

黒岩清四郎 (昭和37年卒)

【もしも、もう一度生まれてきたならば】

昭和三十七年卒、ご時世は高度経済成長の入り口でした。

当時の夢(進路希望)は、アラビアの砂漠で石油のパイプラインを敷く仕事でした。時には「サソリ」と闘っていたかも。

夢叶わず食品メーカーに入社。サラリーマン生活三十九年を経て、いまは都内でコンビニ経営者。

もう一度の人生・もうじき古希。歩んできた今の人生がやっぱり最高カナ。

結び・・・優しい妻に感謝、感謝です。

須商東京同窓会の役員の皆様、ご苦勞さまでした。

篠原 守 (昭和37年卒)

永遠に心に残る「YSC」

(校章)



高相 博澄 (昭和37年卒)

【白馬岳登山】

須商三年生の白馬岳登山は、大雪渓とお花畑など、山の素晴らしさを実感し、山への見方を一新させてくれた。

会社では「山の会」に入り、丹沢・尾瀬等をハイキングし、友人とは、北アルプス・秩父も縦走した。特に尾瀬は数え切れない程出かけ、水芭蕉・日光キスゲ・残雪等を木道から楽しんだ。

そして、山から戻るとストレスが解消され、何事にも前向きになれた。

白馬岳はその後、家族を含め、三度登山したが、山の魅力と厳しさも教えられた。

白馬岳登山を企画・引率した、担任の坂本先生に感謝している。

高見澤敏治 (昭和37年卒)

朝、目が覚めると今日も何か良いことがありそうで起きるのが楽しい。誰れからも干渉されず、日長一日好きなことをして、夜床につくのはこの上なく楽しい。

又、楽しいことを目標に、家庭菜園を中心に、絵画・日曜大工・釣り・ゴルフ等々何んでも興味旺盛に日々精を出して楽しんでいきます。

事務局の皆さんご苦勞様です。

宮澤 直 (昭和37年卒)

ボランティアで高齢の方に運動の指導をさせて頂いております。

登山とウォーキングをしております、元気です。高校三年の時の白馬岳登山が心に残っております。

北島佐恵子 (昭和38年卒)

役員の皆様お忙しい中、お世話になりありがとうございます。

今年三月法事の為、小布施に帰り一泊し翌日十五回生女性十名のうち、六名と昼食会を開きました。卒業以来、初めて会う同級生もいて、五十年の歳月をしみじみ感じました。

お互いにはち切れんばかりだった卒業時の面影の残る笑顔は、それぞれの人生を映して貴重な出会いでした。みんなステキなおばさんになっていました。

今回えなかつた友にも是非お会いしたいです。

小林 義昭 (昭和38年卒)

母校の名称も無くなり、寂しいのと東京同窓会も二十八年度で、解散。残る三回は万全を期して出席したいと思えます。

幹事の皆様には、大変お世話になります。二十八年度までよろしくお願ひします。

関 昌雄 (昭和38年卒)

母校が再編統合で須坂創成高校に生まれ変わっても、私の心の中にはいつまでも須商が残るであろう。

ありがとうございます！

土屋 眞五 (昭和38年卒)

【小布施町へUターンしました。】
四十年間の在京生活後、ちょうど二年前に生まれ故郷に戻りました。

田舎暮らしの良い点 ①緑が多く空気が良く長生きできそう。②同級生等、友人知人が多く交友が賑やか。

悪い点 ①近所つき合いが煩わしい。②繁華街、劇場が少なく、遊びが地味。

蜂谷 雅人 (昭和38年卒)

【東京同窓会の恩人 青木さんを偲ぶ】

青木会長は平成九年より十年間会長を務めて頂きました。

角界・芸能界に広く人脈をもち、櫓太鼓の「昭和の三大名人」永男名人他を総会にお招きし、軽妙な太鼓と「須商甚句」が会場に響きわたりました。

また、キングレコードデレクターを長年携われ、音楽研究家の「長田暁二」氏も総会にお招きし「歌謡曲面白こぼれ話」では「信濃の国」「須坂小唄」等の郷土にまつわる歌から、歌謡曲まで、軽妙な語り口も楽しい講演でした。

東京同窓会を盛り上げていただいた、青木さんのご冥福をお祈りいたします。

西沢 捷二 (昭和38年卒)

高齢化、少子化の時代となり、母校もついに存続が絶たれる悔しさと寂しさはあります。

須商東京同窓会には不参加が多く、今となり反省仕切りであります。我ら十五回生は長野でのゴルフ仲間の一五会、途絶えている東京での飲み会、燎八会の復活をし、母校須商の仲間とのコミュニケーションを一層深めて参りたいと願っています。最後に新生統合高校への成功と発展をご祈念申し上げます。

牧 行政 (昭和38年卒)

体調不良により欠席します。皆様よろしく願います。

盛田 登 (昭和38年卒)

今年の三月で退職し、今は毎日家でぶらぶらしています。同級生三人と一緒にサイパン旅行を計画(十月十二日~十五日)。ゴルフ、その他を楽しんで来る予定です。

割田 隆 (昭和38年卒)

隔月に『元氣確認?』と称して会っている飲み仲間の内、ゴルフをやる盛田登、関昌雄、樽沢輝夫と小生の四人で十月十二日から三泊四日のサイパン旅行に行った。

盛田、関と小生は今回二回目。関の案内で行つて以来、その魅力にとりつかれ、もう一度が九年越しで

実現した。

青い空と紺碧の海、数百メートルはある眼下の岩壁に激しく砕け散る白い波、太平洋戦争末期米軍に投降せず、『天皇陛下万歳』と叫びながらこの断崖から身を投じた人達を思うと、思わず胸が熱くなり周囲の慰霊碑に手を合わせずにはいられない。

観光、ゴルフ、グルメを満喫し、ホテルでは夜明け近くまで卒業以来それぞれ半世紀を語りながら、健康、家族、仲間、そして平和に安住できる有難さを痛感した旅であった。さあ、次は何処に行く?

岩崎 幸夫 (昭和39年卒)

六十八歳になりました。楽しみは、孫六人の成長とゴルフへの挑戦です。

ゴルフはエージーシユートを目指し、身体の動く限り距離、スコアにこだわって楽しみたいと思っています。目標は遥か遠くにありますが、気持ちでは一步一步前進したいと、日々努力しています。

幹事の皆様、長い間ご苦勞様です。お世話になりました。解散まで何とぞ宜しく願います。

十木哲夫 (昭和39年卒)

須商の思い出で、それは三年生の夏、就職活動が始まり、担当の先生から東京の出版関係会社の打診があ

りました。私は農家の次男坊で、信州を離れる覚悟は出来ていて、履歴書を提出しました。

その後、先生から履歴書欄の「健康」を「頑健」と変えるようにでした。私は三年間無遅刻、無欠勤だったの

で先生もそのような指導をしてくれたのだと思います。入社した会社は出版物の取次業で、重い本や雑誌を取り扱う大変厳しい会社で、頑健でなければ勤まらない内容でした。

私はその社で定年まで勤め、その後四年間関連会社で働き、四十六年間楽しく働けたのも、あの時の先生のアドバイスのお陰と感謝しています。

現在は自宅の近くに畑を借り家庭菜園で野菜作りに励んでいます。今も頑健です。

中山 勉 (昭和39年卒)

東京オリンピック開催の年に卒業し、世に出て以来六十一歳で退職。須坂商業を母校に持てたことは誇りであります。

また、須商東京同窓会に携わって二十数年、有意義に過ごさせていただき、感謝しております。

大峽 賀利 (昭和40年卒)

故郷を離れ四十八年経ってしまいました。私は応援部で声が大きいということ、須商祭では宣伝隊として自転車で近隣市町村をメガホン

片手に巡ったことや新入生への応援指導、夏の野球部への応援、須商の伝統を守るため放課後に練習したこと等々を思い出します。

三年生の時には念願の応援用、和太鼓を購入しました。まだあるのだろうか?

有賀 信子 (昭和40年卒)

私が通学していた頃は、校門を入ると直ぐ左手にクローバーに囲まれた丸い池があり、その先にテラスのついた図書室がありました。

教室から渡り廊下でそこに行くこと、明るく清々しい気分になった事を覚えていきます。

時が移り、校舎や校庭も様変わりし、平成二十七年度には再編統合が始まります。

須商という名称は消えて淋しくなりますが、あの頃の学び舎は、これからもずっと心の原風景として、私達を支え、励ましてくれると思います。

小田 彰 (昭和40年卒)

事務局員を懲りずに二十五年間お世話になっている。理由(総会でご高齢先輩達の健康な姿が目によきつき、何がそうさせるのか、日本を代表する企業の会長からの一喝等素晴らしい同窓生との出会いに酔いしれている。蜂谷さん等を中心とした事務局のチームワークに惚れ込み、いつの間にか自分も輪の中にい

みなさんからの便り

た)が真相だ。
健康の秘訣は、目標を定めて突き進む事にありと結論し実行している。

小林 直治 (昭和40年卒)

7年前のこと、母校80周年行事の件で先輩の安財達志さん(昭39卒)のご自宅にお伺いしたとき、「家事調停委員」の仕事をお勧めいただきました。

自分の定年後の生活・・・一体何をしたらよいか迷っていた矢先、安財さんからの貴重な助言でした。目下、おかげさまで、充実した日々を過ごしております。

同窓会活動を懸命に取り組んでいたご褒美をいただいたものと、勝手に思っております。感謝。

檀原 憲治 (昭和40年卒)

誠に古い思い出で恐縮に思いますが、高校の入学試験の結果発表の日が、一番上の兄の結婚式当日と重なり、早朝からラジオの音声に耳を傾けていました。

当時は、合格者の受験番号がラジオで伝えられたためですが、幸いにも入学することが出来、大喜びした記憶があります。

中澤 功夫 (昭和40年卒)

私にとつての須商は、曲淵先生との出会いが大きい。自信が持てず、戸惑いの多い時期、強く生きる、たく

ましく生きると言うことを、肌で感じさせてもらったように思う。その後の人生を決定した就職も、先生のお力添え無くば、どうなっていた事か。感謝。そして、合掌。
それから同期の面々、口数は多くは無いが、根性は並ならずの個性派ぞろい。これからも続くであろう十七期同窓会は私にとって大切な楽しみの一つである。

森山 貞幸 (昭和40年卒)

早いもので、卒業してから半世紀も過ぎてしまいました。

恩師に紹介されて入った銀行も無事定年退職し、商業高校を卒業した自分としては、良く頑張ったと自負しております。

これも、ひとえに恩師・先輩の方々のお陰と思っております。

卒業して、社会人となり、仕事をしていた時はあまり感じませんでした。が、定年間近になった時は、田舎や、高校の恩師、同級生に無性に会いたくなりました。

小川 安雄 (昭和41年卒)

【母校の思い出】

青白いコンパクトな木造二階建ての学び校舎。隣に小さな講堂、耳を傾けた朝礼。

講堂の前に、ガラス窓が広くて明るい開放的な図書室・テラス、よく日向ぼっこしたよね。テラスの横には広い庭、真ん中に丸い大きな池、綺

麗だったかな？雨の紫陽花きれいだったよね。
三年間お世話になった校舎(須商)が消えるとは寂しいですね。
ありがとうございます、我が母校須商！

片桐 正人 (昭和41年卒)

兄が亡くなり実家も遠くなりました。でも今日、私があるのは生まれ故郷であり、社会人として、この年まで頑張れたのは母校「須商」のお陰だと思えます。

年と共に田舎の良さを感じています。

勝山 功久 (昭和41年卒)

須商を卒業し就職。転職する器量のない小生は同一企業で丸四十七年間勤務いたし、この三月で一応のピリオドを。

これからは新しいステージ、荒れた心身に潤いを施し、惚けない程度の雑学の勉強を楽しむことができればと思っております。

末筆となりましたが、会員各位の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

北沢 博 (昭和41年卒)

高校の再編統合とはいえ、学舎が無くなることは大変残念です。今でも、応援の練習をしたのを思い出されます。

黒岩 敬子 (昭和41年卒)

昭和四十一年卒業し地元会社に就職。

夫は四歳上の同窓生。夫の転勤により東京へ。既に故郷を離れて42年過ぎました。

仕事も現役継続中で、休日は夫と旅行、ゴルフで人生エンジョイしています。

皆様のご健康とご多幸を祈念しています。

小山 俊久 (昭和41年卒)

【定年後植木職人に転身】
以前、成美会誌で報告しましたが定年後、植木職人として再出発しました。

花木を相手に散髪屋さんと同様に短く手入れをすると、お客さんからスツキリし、サツパリしたと、大変喜んでいただけます。

この喜びを生き甲斐に体力の続く限り貢献していきたいと思っております。

佐藤今朝雄 (昭和42年卒)

【六十五歳！高齢者の仲間入り】
四人に一人が六十五歳以上だそうです。

振り返ってみれば、様々な人との出会いそして別れがありました。

この同窓会も幹事の仕事を同じ良き諸先輩に接することが出来、感謝しております。

また、趣味の絵画、スポーツジムの

友人との交流も楽しみの一つです。今後とも「人との出会い」をより大切に平々凡々と暮らす。この先、何年生きるか分かりませんが、残りの人生を有意義に過ごしたいものです。

神品富美子（昭和43年卒）

高校時代の思い出される事は、入学して間もなく厳しい応援練習の連続でした。でも今は、懐かしい思い出の二コマです。

須坂商業高校の名が消える事は非常に残念ですが、時代の流れでしかたのない事だと思っています。しかし、思い出は消える事がないと思っています。

竹内 勝一（昭和43年卒）

須坂の実家に帰省した際に、百々川の河川敷を散歩する。

上流に向かって歩くと両サイドにゲートボール場やマレットゴルフ場



青木 悟さんを偲んで

元会長 青木悟さんは、平成二十五年四月十五日ご逝去されました。

慎んでご冥福をお祈りいたします。私たちの須商東京同窓会には、永年ご尽力賜り感謝の念に堪えません。

総会の席で開口一番「よく来てくんました！」と、思い出します。大きな青木さんの母校への愛してやまない思い、私たちは忘れません。ありがとうございました。 合掌

が良く整備されて、私よりも先輩の皆さんが楽しくボールを追いかけている。母校の先輩もプレーしていると思うと、思わずナイスパーと声を掛けたくなる。左側の臥竜山は部活で駆け回った山だ。振り返れば北信五岳が美しい。故郷はいい。

中沢 邦芳（昭和44年卒）

いつも成美会誌を楽しみにしておりました。毎年一回以上は須坂に帰り、自分の原点は須商だと思っております。

最近では小学校、中学校の同窓会もあり、楽しみです。須坂市の人口も減少に転じており、世の中が少しずつ変わってきていることを感じます。

その中の廃刊は止むをえません。須商の思いは一生忘れませんので、

その思いを胸に頑張っていく所存です。皆様も健康を第一に、ご活躍を祈念いたします。

金井 年男（昭和47年卒）

【甲子園出場】

今から四十二年前の昭和四十六年夏、須商野球部が甲子園初出場、校名が全国に知られた日が来た。グラウンドで汗を流したことが昨日の様に思い、学生時代の私は野球小僧一筋の人生でした。母校が「甲子園初出場」という偉業を成し得たことを誇りに思い、今も語り継がれていることを感無量で、胸が熱くない、この思い出は生涯忘れられない。いつまでも私の心の中で灯し続けるのです。

須商の校名がなくなるが、我が母校の須商は永久に不滅です。

田牧 博（昭和48年卒）

【母校の思い出】

四十年前、須商で様々な教えを受けました。男女共学で女性を知り、現在の妻に巡り会えました。

学友と悪戯し、世の我慢の限度を学びました。

簿記と珠算を学び、税務の仕事に携わることができました。

担任教師と激論を交わし、何事にも突き進む勇気を教わりました。

東京同窓会が解散ですか……ご尽力頂いた皆様に感謝致します。

編集後記

今回は成美会誌、「さよなら特集号」として、みなさんから多数の寄稿をいただき、ありがとうございます。ありがとうございました。

母校は平成二十九年三月、九十一年の歴史を閉じ、須坂園芸高等学校と再編統合され総合技術高校として、須坂創成高等学校（仮称）となります。

「みなさんからの便り」は、「戦中・戦後の状況」「母校の思い出」「近況報告」など多岐にわたり、「母校が無くなることは、残念でたまらない」という声が多く寄せられ、母校に対する「思い」「感謝」と「絆」、さらに、「故郷への愛着」を感じました。

寄稿されたみなさんに、深く感謝申し上げます。成美会誌は今回で廃刊となりますが、同窓会総会は、今後三年間続きます。これからも宜しくお願いします。

事務局長 中山 勉

